

日本車両の4つの事業

当社は、1896年(明治29年)の創業以来、120余年の歴史を刻みながら、鉄道車両の製造で培った溶接技術などを生かし、重量物の搬送機械やタンクローリ、橋梁の製造・架設、杭打機といった建設機械の製造まで多角化を進め、現在はエンジニアリング事業を加えた4つのセグメントが相互に補完し合うとともに、適切に事業を分散することで、経営基盤を安定させるための事業ポートフォリオを構築しています。今後も、この4つのセグメントの「最高品質のものづくり」を通じて、広く社会に貢献していきたいと考えています。

売上高構成比 **12.7%**

119億5,700万円

エンジニアリング事業



売上高構成比 **21.5%**

201億8,500万円

建設機械事業



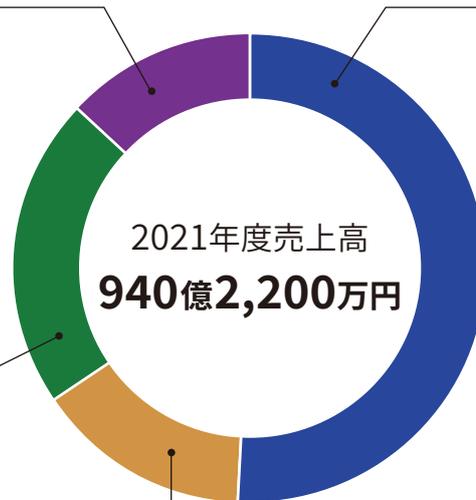
売上高構成比 **51%**

479億5,800万円

鉄道車両事業



輸送用機器・鉄構事業



売上高構成比 **14.7%**

138億5,500万円

鉄道車両事業

N700S新幹線等の高速車両のほか、JRおよび私鉄・地下鉄などの鉄道会社をメイン顧客として数多くの車両を製造しています。2019年には新幹線製造実績4,000両を達成し、新幹線製造では国内トップシェアを誇ります。今後は、超電導リニアの開発・製造も進めていきます。

輸送用機器・鉄構事業

エネルギー・鉄鋼・造船業界で不可欠なタンクローリや自走式キャリアなどの輸送用機器を製造しており、いずれもシェアは国内トップクラスです。道路橋、鉄道橋などの設計、製造、架設および補修工事を行い、全国で3,000橋以上の架設実績を誇っています。

建設機械事業

国内市場で圧倒的シェアを誇る大型杭打機など建設機械を製造しています。ビルや道路をはじめ、巨大構造物の建設現場には必ずといっていいほど日本車両の建設機械があります。近年はアジア圏を中心とした海外市場の開拓にも力を入れています。

エンジニアリング事業

世界初の超電導リニア関連設備をはじめ、鉄道の安心・安全な運行を支える車両の検査・修繕設備、収穫した米の乾燥から出荷までを行う営農プラント、紙製品を製造する製紙関連設備など、多様な製品を開発しています。